

ふれあい

主な内容

- 子育てサロン 1P
- 子育てを支援 1P
- 1中地区の交通事故多発箇所に注意 2P
- 地元の歴史 2P
- あれや・これや 3P
- 私のたのしみ/地域のわだい 3P
- 心に残る思い出/活動団体紹介 4P
- ボランティア紹介/部会だより 他 4P

●発行所/ひたちなか市長堀町 3-4-1 (1中地区コミュニティセンター内) 電話 029-275-2671 ●発行責任者/大和田 敬治 ●編集/広報委員会

あそびにおいでよ! 子育てサロン



活動日



時間

おあしす@金上 (第3水曜日)
 おあしす@中根 (第1水曜日)
 おあしす@長堀 (第4火曜日)
 各会場とも AM10:00 ~ 11:30



手作りシーソーでギッタンバッコン 長堀



まわれ~まわれ~ 中根



出席カード



おやつタイム ^o^ 金上



みんなで遊戯♪ 中根



読み聞かせ 金上

お母さんたちも子どもたちも友だちをたくさんつくり、笑顔で帰って、また来てくれる事を願い、子どもたちの見守りや子育ての相談を受けながら、交流を深めています。

「子育てサロン」おあしす@金上・@中根・@長堀を立ち上げ今年度で10年になります。ふれあいを広める会福祉部会とひたちなか市第2地区民生委員児童委員協議会が協働し、地域ボランティアの方々の協力を得て活動しています。活動内容は、自由遊び・手遊び・読み聞かせ等々それぞれのサロンで独自性を持った運営となっています。

少子化・核家族が進む中、母親たちは溢れる育児情報に迷い、孤立した育児環境の中で「子育て」に悩んでいます。

そのような育児不安を少しでも軽減し、子どもたちが豊かに成長するための支援を目的として「子育てサロン」は開設されました。親子が気軽に子育てについて情報交換し、一緒に遊び交流の輪を広げて、楽しい子育てができる場所と考えています。



岡田 豊勝

福祉部会会長

子育てを支援

1 中地区の交通事故多発箇所に注意!!

平成26年1~12月 事故発生箇所ワースト5

人身事故		物損事故	
金上十字路	17件	勝田中央(駅周辺)	70件
勝田中央	16件	笹野(常陽銀行)	69件
東石川(NTT)	16件	東石川(1~3丁目)	62件
笹野(常陽銀行)	15件	金上十字路	47件
表町	13件	石川町	44件

事故の原因は?

- ①前方不注意による追突
(携帯電話や物を取るなどのわき見運転)
- ②横断中の事故(歩行者の「車から見えているだろう」「渡れるだろう」の甘い判断)
- ③信号無視
(黄色信号での無理な進入、信号見落とし)



人身事故 16件
物損事故 70件



人身事故 16件
物損事故 62件



人身事故 17件
物損事故 47件

最小限に抑えるには!

- ・「だろう運転」はしない!
- ・搭乗者全員がシートベルト着用
- ・信号で止まったときは、サイドブレーキを併用する。
- ・歩行者は、反射板を身に着ける。横断歩道を渡る。

平成26年 事故件数

内 訳	一中学区	西署管内
軽 傷	133	851
重 傷	9	55
死 亡	1	6
人身事故総数	143	912
負傷者数(人)	184	1,213
物損事故	607	3,916

人身事故143件中

歩行者の関わる事故	13
自転車の関わる事故	27
バイクの関わる事故	5

お知らせ

- ・ひたちなか西署では、ニセ電話詐欺撲滅を目指して、「迷惑電話チェッカー」を、2年間利用できるモニターを募集しています。モニター条件がありますので詳細は西署生活安全課へお問い合わせください。
- ・平成26年は、空き巣・居空き・ニセ電話詐欺・万引きが昨年より増えています。

*ひたちなか西署生活安全課課長豊嶋様と勝田駅前交番で、一中地区の交通事故状況についてお話を伺いました。

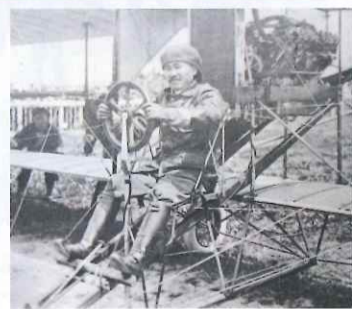


浩波の墓石



自宅での葬儀

武石浩波(こうは)の生家を訪ね、お話を伺いました。浩波は、明治17年(1884)、那珂郡勝田村(現ひたちなか市勝倉)において、父・利兵衛、母・さんの三男として生まれました。本名は道之助。小学校の成績は抜群だったので、水戸中学校(現水戸第一高等学校)に入学したそうです。中学校においても成績は優秀で、上級生になると短歌や俳句などを文芸雑誌に投稿する文学青年でした。しかし卒業後はアメリカに渡り、明治41年ロスアンゼルス郊外で開催された飛行大会で、フランス人飛行家ルイ・ポワランドの姿に感動し、急速に飛行機に熱中していきましました。飛行機に関する本を買い求め、猛勉強。明治45年2月には、カーチス飛行学校に入学し、わずか3ヶ月で飛行機の操縦資格を取得しました。翌大正2年4月、浩波は飛行機を携えて日本に帰国。同年5月3、4日の大阪朝日新聞社主催の「都市連絡飛行」に挑戦しました。3日は兵庫県鳴尾競馬場で旋回飛行を披露。4日午前には鳴尾を飛び立った飛行機は、まず大阪に無事着陸。午後、京都に向かった飛行機はやがて京都深草の上空に悠然と姿を現しました。誰もが成功を確信していた着陸寸前、機体はバランスを崩して墜落大破。浩波は投げ出され病院に運ばれましたが、まもなく28年の生涯を閉じました。この衝撃的な最期は当時大々的に報じられ、飛行機に命を懸けた浩波に多くの若者が感動し、飛行家を志すことになりました。大正3年に建てられたひとときわ大きい浩波の墓石が、生家を見下ろす勝倉地蔵根の武石家の墓所にあります。



武石浩波

武石浩波(こうは)の生家を訪ね、お話を伺いました。浩波は、明治17年(1884)、那珂郡勝田村(現ひたちなか市勝倉)において、父・利兵衛、母・さんの三男として生まれました。本名は道之助。小学校の成績は抜群だったので、水戸中学校(現水戸第一高等学校)に入学したそうです。中学校においても成績は優秀で、上級生になると短歌や俳句などを文芸雑誌に投稿する文学青年でした。しかし卒業後はアメリカに渡り、明治41年ロスアンゼルス郊外で開催された飛行大会で、フランス人飛行家ルイ・ポワランドの姿に感動し、急速に飛行機に熱中していきましました。飛行機に関する本を買い求め、猛勉強。明治45年2月には、カーチス飛行学校に入学し、わずか3ヶ月で飛行機の操縦資格を取得しました。翌大正2年4月、浩波は飛行機を携えて日本に帰国。同年5月3、4日の大阪朝日新聞社主催の「都市連絡飛行」に挑戦しました。3日は兵庫県鳴尾競馬場で旋回飛行を披露。4日午前には鳴尾を飛び立った飛行機は、まず大阪に無事着陸。午後、京都に向かった飛行機はやがて京都深草の上空に悠然と姿を現しました。誰もが成功を確信していた着陸寸前、機体はバランスを崩して墜落大破。浩波は投げ出され病院に運ばれましたが、まもなく28年の生涯を閉じました。この衝撃的な最期は当時大々的に報じられ、飛行機に命を懸けた浩波に多くの若者が感動し、飛行家を志すことになりました。大正3年に建てられたひとときわ大きい浩波の墓石が、生家を見下ろす勝倉地蔵根の武石家の墓所にあります。

地元の歴史 勝倉出身の民間飛行家「武石浩波」

私のたのしみ

木製振り子時計作り

川瀬 英幸さん

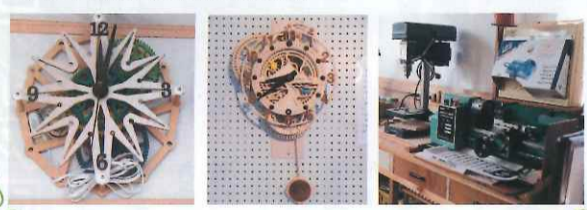


物作りを楽しむ川瀬英幸さん(66)に、東中根団地のご自宅(仕事部屋)でお話を伺いました。長野のご実家が履物屋で、木工用道具が身近にあり下駄などを作る父親の姿を見て育った川瀬さんは、小さい頃から物を作るのが大好き。小5の頃には廃材で東京タワーを作ったそうです。就職も機械設計の仕事で、長年物作りにかかわって来られました。

定年を迎えてから、自由な物作りに専念。動くものがいいと、時計を作り始めました。金属は加工が大変なので、小さい頃から慣れ親しみ細工のし易い木で作ることにしました。最初は、本体だけ木の電気時計を作りましたが、どうせならと振り子時計に挑戦。ゼンマイだけが既製品で歯車・振り子・針・文字盤・数字などを木工細工しました。歯車の数や仕組みは同じでも、花・動物などデザインはみな違い、細かい加工です。設計・加工・組み立て・調整と、1つ作るのに2ヶ月位かかるそうです。「作るのが楽しい。特に形が出来上がって調節する時が1番嬉しい」「難しいのは回転の負荷を小さくすることで、いろいろ試したが蜜ろうワックスをぬるのが1番良い」と、少年のような笑顔で話してくれました。

仕事部屋は、廃材で作った机・引き出し・棚に、パソコンや糸のこ・旋盤など工作機械・道具・材料がいっぱいです。

木工だけでなく味噌作りにも挑戦。麹も家で作ろうと保温器も作りましたが、温度調節がなかなか難しく、今ではヨーグルト作りに利用しているそうです。本当に物作りを楽しんでいらっしゃる姿に感銘を受けました。



この「新春の集い」は年頭行事として、地域住民が一堂に会し、賀詞交換と餅つきを通して交流を深めています。富士山子ども会・育成会のご協力により、出来たての「餡こ餅」「きな粉餅」を食しながら、今年一年を元気で過ごせ



今年も加入世帯252戸の住民が、気持ちよく生活できるよう努力しますので、ご協力お願いいたします。



今日は何の日コーナー エレベーター内の行先表示板を利用して「今日は何の日」や「季節の写真」を掲載しています。是非ご覧ください。

あれや・これや



新春の集いの開催について

富士山自治会広報担当 鈴木 敏男

富士山自治会では、毎年1月に恒例の「新春の集い」として、餅つき大会を行っております。

今年も、1月18日冬の晴天の下、富士山公園に多くの皆さんが参加して、盛大に開催されました。

今年も加入世帯252戸の住民が、気持ちよく生活できるよう努力しますので、ご協力お願いいたします。

大成町に越してきて

大成町自治会 小堀 繁治

私は東京、家内は中国生まれで、知り合う前から結婚直後まで諸事情により、各地を転々としてきました。勝田に来て13年、50歳を目前に人生の終焉地について話し合

家を契約、2月には大成町の一人に迎え入れてもらいました。今、全てに感謝しています。一方、誤算もありました。夫婦二人で静かに暮らすつもりでしたが、実家ができた大喜びの息子・娘夫婦、それに親。かなり賑やかになりました。この原稿提出の翌々週には息子の嫁が(息子を置いて)5月に生まれ、たばかりの孫を連れ、やってきます。「どこよりも大成町の実家が1番落ち着くので、1か月弱お邪魔します」とのことでした。(あなたの実家ではありません!)我が家に静けさはいつ来るの?ともあれ、これからよろしくお願ひいたします。

1中3センター

電子ピアノ寄贈!

このほどコミセン利用団体の「ゴスペルLovers」様から電子ピアノの寄贈がありました。さっそく3階の研修室2に備えました。ピアノのほかオルガン・ハープ等のサウンドで演奏ができます。皆さん、ぜひご利用を!希望される方は、事務室に声をかけてください。



地域のわだい

ホームは勝倉小学校グラウンド

勝倉サッカースポーツ少年団

勝倉サッカースポーツ少年団は、勝倉小グラウンドで毎週土曜日の午前中、練習をしています。現在、1~6年生合わせて33人の団員がおり、ひたちなかオーシャンカップ学年別と、全国大会につながる茨城県大会(学年別・中村杯)等の少年サッカー大会に出場しています。試合は1チーム8人です。

少年団発足は、Jリーグ発足と同年の1993年5月。小学校に赴任された先生の呼びかけで、サッカーの好きな子どもたちが集まり活動を始めました。その後、発足当時の子どもたちの親が中心となってコーチとして残り、現在の活動につながって23年目に入りました。毎週の練習以外に、夏は合宿・3月は6年生の卒団式を行なっています。勝倉小での練習に参加できるサッカー好きの小学生、入団はいつでも大歓迎です。



良い年を願って、しめ飾り作り

西中根自治会

12月19日、西中根女性セミナー主催の「しめ飾り作り」が、14人の参加で西中根会館に於いて行われました。

会代表の伊藤昭子さんの指導で作ります。まず、わら2本で左もじりの縄作り。毎年作っていてもコツをつかむまでは縄にならず、悪戦苦闘していました。次にしめ縄作り。一握りのわらを3等分して左もじりするのなかなか難しく、手伝い合っって輪に作りました。いよいよ、しめ縄に縁起物の飾りを順序良く付けていきます。昆布(よろこぶ)・裏白(裏も白いところを見せる)・ゆずり葉(次の代に譲る)・橙(代々)・柿(福をかきこむ)・海老(1年ごとに脱皮して大きくなる)・末広(繁栄)を願いながら、参加者は立派なしめ飾りを作ることができました。

西中根では1月11日にどんど焼きが行われ、今年の幸運を願ってしめ飾りは空に返されました。



元気に戻って来い!!!

中根小学校

2月24日、中根小4年生の児童が、大川の堂下橋付近に鮭の稚魚を放流しました。これは、11月25日に那珂川第一漁業協同組合が中根小に鮭の受精卵を届けて、子どもたちが家で3か月大切に孵化させ育てた稚魚です。

子どもたちは、「卵(稚魚)が流れないように気を付けながら、2・3日に1回水の交換(水道水を汲み置きしておく)するのが大変だった」「目が現れ、頭ができ、しっぽが出てきて、毎日変わるのを見るのが楽しみだった」と育てた様子を話してくれました。別れが少し寂しそうです。稚魚まで育てられなかった児童は、学校で育てた稚魚を放流。「元気に戻って来い!」の子どもたちの声が響きました。

毎年放流しているので、近年は大川に鮭が戻って来るのをわずかながら見られるそうです。



